

2026年10月14(水)午前 9 時30分からCRTスタジオで収録

＜読書教育＞ 中高生は、図書館の「YA(ヤング・アダルト)コーナー」で、読解力を身につけよう！
—小学生は、「学年別(小1～小6)コーナー」を最大活用しよう—

開倫塾 塾長

開倫塾日本語学校 理事長・校長

林明夫

Q：開倫塾は創業以来、ずっと、「読書」をすいせんしています。なぜですか。

A：すべての学力の基礎である「読解力」は、「辞書・新聞・読書・図書館に慣れ親しむ」ことで身につくからです。中でも、「読書」はとても大切です。

Q：「図書館」ですか。たとえば、「学校図書館」や「公共図書館」に行ったら、どのような本を読めばいいのですか。

A：(1)小学生は、小1、小2、小3、小4、小5、小6など、「学年別の本」をおすすめします。

(2)小学生で、読書が大好きで、本をよく読む人は、自分の学年の本だけでなく、少し上の学年の本もどんどん読みましょう。読書に遠慮は一切不要です。

(3)今までに本をあまり読んだことのない人は、どうすればよいでしょうか。

①ちょっと読んでみて、難しすぎて分からなければ、読めば分かる学年の本から読みましょう。小学1年生の本から、ゆっくり読むこともおすすめです。1年生の本に慣れてきたら、2年生の本に挑戦しましょう。

③無理は禁物です。このように、少しずつ学年を上げていくことをおすすめします。

Q：中学生、高校生は、どのような本を読んだらよいのですか。

A：(1)図書館の「YA(ヤング・アダルト、ティーンエイジャー)コーナー」の本をおすすめします。

(2)中学1年生から高校3年生までは、「YAコーナー」の本がおすすめです。

(3)多くの学校図書館や公共図書館の「YAコーナー」には、いろいろな「ジャンル(分野)」の本がそろっています。特に、公共図書館の「YAコーナー」は、どこも驚くほど充実しています。

(4)「小説(日本の小説・世界の小説)」「エッセイ(随筆)」「詩・短歌・俳句」「伝記」「地理(日本・世界)」「政治・経済・国際関係」「哲学」「歴史読み物(古代、中世、近代、現代。日本・世界)」「数学」「科学読み物(生物・生命科学、化学、物理、地球科学、医学)」「スポーツ」「芸術」「情報(パソコン、AI、DX)」「ロボット」「自動運転」をはじめ、さまざまな「分野(ジャンル)」の本が、学校図書館や公共図書館の「YAコーナー」にあります。「学習マンガ」や「CD」も、多くの図書館にあります。

(5)「小学1～6年のコーナー」の本で「読書」に慣れ親しんだ小学生の皆様にも、「YAコーナー」の本がおすすめです。

(6)高校生や大学生、社会人でも、一般の「文庫本」「新書本」「単行本」は、内容が少し難しく、目を通してさっぱり分からなければ、あまり無理をせず、「YAコーナー」の本で「読書に慣れ親しむ」ことをおすすめします。

(7)また、高齢で、少し細かな内容の本が読みにくくなった方には、「YAコーナー」や「小学1～6年生のコーナー」の本を、ゆっくり声を出して読む(音読する)ことをおすすめします。

○慣れ親しんだ本をゆっくり音読することは、素晴らしい認知症対策にもなります。

Q：「絵本」も素晴らしい読書ですよ。

A：(1)そのとおりです。「絵本」こそ、声を出して読む（音読する）と心にしみます。

(2)「絵本」は、幼児、小児、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人、高齢者と、年齢を問わず、あらゆる年代の人々に感動と深い感銘をもたらす文学作品です。

(3)ぜひ、図書館の「絵本コーナー」で、「好きな絵本作家」「好きな絵本出版社」「興味のある分野（ジャンル）」「好きな地方」「好きな国」の絵本を、生涯にわたって読み続けていただきたいと希望します。日本だけでなく、世界各国に素晴らしい絵本があります。

Q：この数年、学校図書館や公共図書館で「ビブリオバトル」がはやっていますね。「ビブリオバトル」とは何ですか。

A：(1)「ビブリオバトル」とは、何人かの出場者が、「自分が読んだ本の中で、みんなに推薦したい本」を1冊、何も見ずに5分間紹介する（小学生は3分）ものです。その後、2分間の質疑応答を行います。出場者全員が紹介し終えた後、全員で質疑応答を行い、最後に、その日に紹介された本の中から、読みたくなった本に参加者全員が1人1票を投票します（発表者は、自分で紹介した本以外の本に1票を投票します）。そして、その日の「チャンプ（チャンピオン）」を決定するという「書評ゲーム」です。

(2)では、「ビブリオバトル」で、どんな本を紹介したらよいでしょうか。

①学年の枠を超え、自由自在に紹介する本を選ぶのが一番です。

②また、小学生は「図書館にある学年別の本」、中学生・高校生は「YA コーナーの本」から選ぶのも一つの方法です。

③本を選んだら、よく読み込み、著者との時空を超えた対話を繰り返し、「自分の言葉で紹介（表現・説明）する」ことが大切です。

(3)「ビブリオバトル」の素晴らしさは、友達や仲間に自分の好きな本を紹介し、また、友達や仲間の好きな本を紹介してもらうことが、素晴らしいコミュニケーションになることです。表現能力や読解力も身につきますが、一番は、友達や仲間と本当のコミュニケーションができることだと考えます。生涯を通しての「励まし合う仲間づくり」のよいきっかけとなり、「人を通して本を知り、本を通して人を知る」という、人と人とのつながりを生む素晴らしいコミュニケーションとなります。

(4)ぜひ、身近なところで開催される「ビブリオバトル」にご参加ください。

(5)開倫塾、開倫塾日本語学校、開倫ユネスコ協会でも、「ビブリオバトル」が開催できるとよいなと希望します。

(6)何事も挑戦です。皆様も、自分たちで「ビブリオバトル」をやってみませんか。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)今回は、「学校図書館」「公共図書館」にある本について、小学生には「小1～小6までの学年別コーナーにある本」、中学生・高校生には「YA（ヤング・アダルト）コーナーにある本」を、無理のない範囲で少しずつでも読み進め、図書館と読書に慣れ親しむことをおすすめしました。

(2)ただし、本が大好きで、大人が読む本も読める人は、小学生・中学生であっても、また、高校生はなおさら、各分野（ジャンル）の名作・古典と呼ばれる「文庫本」「新書本」「単行本」「全集」などにも挑戦してください。

(3)小・中学生の頃から「横溝正史」のミステリーや「松本清張」の推理小説などに慣れ親しんだ人は、高度な読解力が身につきます。難関高校、医学部医学科や難関大学の入試に耐えられる読解力を身につけたければ、日本や世界の古典や名作、「ノーベル賞作家」の作品、大ベストセラーの小説やエッセイに挑戦することをおすすめします。